

# 悩みと成長 思い一冊に

## 川崎のフリースペース20年

### 子どもら 自信取り戻す様子記す

学校や家庭に居場所を見つけれない子どもや若者が集うフリースペース。子どもたちと親の思いなどをつづった冊子「居場所とわたし」が出版された。子どもたちが、生きる自信を取り戻す様子がいきいきとつづられている。



居場所作りを始めて20年になる川崎市高津区のNPO法人「フリースペースたまりば」が発行した。2003年から運営する「フリースペースえん」には約1000人が登録。小学生から中高生を中心に日々、30、40人の「居場所」になっている。中には20代、30代のメンバーもいる。

その一人、19歳の少年は高校に行かなくなり、「どこか学校の代わりを見つけなければ」という切実な思いで、数年前から「えん」に通い始めた。冊子の中で、小学生の時から「基本的にいじめられる立場だった」と振り返る。高校生になっても財布から金が減っていたり、自転車かぼろぼろになっていたり。ある日、プツンと糸が切れたように学校へいかなかったという。

### 生きる・支える

「えん」を、最初は「騒がしい」と思った。スタッフも子どもも、いきなり話しかけてきて、戸惑った。それでも「いつ来てもいい帰ってもいい」「特にやることもなくてもいい」。そんな視点が新鮮で、とけ込んでいく。

やがて自分の思いを口にできるようになる。だれかと仲良くしていなければおいていかれるという高校時代の思いを捨てられた。高卒認定試験という目標ができ、親に伝えることができ

た—そんな心境の変化を冊子で語っている。20代、30代の「卒業生」も「えんがなければ、今の私はなかった」「社会に巣立つ勇氣と自信が持てた」などの言葉を寄せた。このほか親の視点から息子が成長していく様子をつづった野博之理事長は、「20年間、出会い育った一人一人」へ。

「えん」ではたくさんのイベントも。年に1度の「こどもゆめ横丁」は、メンバー以外の子どもたちも参加する=11月6日、川崎市高津区

の思いがこもっている。で、多くの人に読んでほしい。今、悩んでいる人にも『必ず道があるんだよ』と伝えたい」と話す。A5判104ページ。一部千円(送料別)。問い合わせや申し込みは「たまりば」(044・833・756)へ。(斎藤博美)

